

5/25
2008年第977号
(毎月5、15、25日発行)



後期高齢者医療制度の中止・撤回を求めてシュプレヒコールをあげる集会参加者ら＝15日、衆議院第2会館前

後期高齢者医療制度 「中止・撤回しかない」 国会前に怒りの声集結

「後期高齢者医療制度には多くの国民が怒っている。制度の中止を知らなければならぬ。中止・撤回しかない」――協会・保団連が15日、衆議院第2議員会館前で行った「後期高齢者医療制度の中止・撤回を求める白衣の国会前集会」に、多くの医療関係者や国会議員が参加し、怒りをぶつけた。集会には歯科医師・医師、事務局あわせて70人が参加し、同制度の中止・撤回を求めた。

協会からは、伊津進弘 理事、山上結志・下井戸昭介副理事長、小山榮三理事・相談役、矢部あづさ理事、宮本辰雄・古田光行監事、事務局ら10人が参加した。保団連の住江憲勇会長

参加者全員で「老人差別の後期高齢者医療制度を中止・撤回せよ」とシュプレヒコール。

後期高齢者・自主共済 大阪選出国会議員に要請

協会・保団連は国会前集会に先立って、後期高齢者医療制度の中止・撤回や、新保険法における自主共済の適用除外などを求めて、衆・参国会议員に要請した。

伊津理事長らは、「保険料を上げ続けるか、医療のサービスを削るかの選択を迫るような制度は中止・撤回しかない」と強く訴えた。

「府の4医療費助成制度削減撤回」を求める要請書 (患者署名)にご協力下さい。(今号に折り込み)

民主・共産・社民・国新の4党から15人の国会议員が参加し、10人が連帯の挨拶を述べた。また、作家の井上ひさし氏・タレントの稲川淳二氏・精神科医の香山リカ氏からも、連帯のメッセージが寄せられた。マスコミからは、日本テレビ・フジテレビ・テレビ朝日・読売テレビ、テレビ東京、共同通信、しんぶん赤旗が取材に訪れた。

後期高齢者医療 府審査会に怒り 不服審査請求の不服審査請求

後期高齢者医療制度に対し、抗議の意思を表明する。4月から始まった後期高齢者医療制度をめぐり、大阪府内の高齢者ら約20人が15日、府庁を訪れ、府後期高齢者医療審査会に不服審査請求をした。

審査会に不服審査請求をした。年金者組合大阪府本部と「介護保険料に怒る一揆の会」が呼び掛けた。請求者らは「高齢者自身が「異議あり」と声を上げることが政治を動かす道である」とし、「現代のうば捨て山というべきもので、直ちに中止・撤回されるべき」と訴えた。

橋下「行革」の見直し課題に 5・6月に患者署名を実施

協会は10日、第14回理事会を開き、橋下徹府知事が進めようとしている「行革」が府民生活に我慢と犠牲を強いることから、この見直しを最重点の運動課題とすること、そのための、医科・歯科協会が一致して患者署名を5・6月に実施する、地区から地元市町村に「財政再建プログラム試案の抜本見直しを求める意見書」採択を要請することなどを決めた。

診療報酬08改定 狙いと本質を読む

診療報酬の改善と同時に、国民の受療権を守ることを私たちにとって大切である。しかし現実には、患者になれない国民が多数生まれている。その背景には、「構造改革」がある。

大企業減税、庶民負担増 「構造改革」による社会保障の削減

は、かつてない大もうけをしている。日本経団連の前会長であった奥田氏のトヨタ自動車は1兆8737億円(07年第3四半期)、現会長の御手洗氏は13兆7千億円と90年に18兆8千億円の経常利益をあげ、13兆9千億円の税負担であった。しかし、06年では、経常利益が3兆8千億円と1・7倍化した。税負担は13兆7千億円と90年

各種相談室

専門家がおこたえします

法律相談

【日 時】6月2日(月)午後2時～4時
【相談者】河村武信弁護士

税務相談

【日 時】6月18日(水)午後2時～4時
【相談者】萩原としゑ税理士

雇用相談

【日 時】6月19日(木)午後2時～4時
【相談者】桂好志郎社労士

相談料は無料、会場は保険医会館1Fです。事前予約制で、1週間前に締め切ります。

歯界 60～70年代に「呉れ呉れた」という漫画が流行った。労働運動の盛んだった頃で、労働条件の改善を要求する労働組合側に対抗する経営側には、好都合な風刺だった。

「構造改革」による庶民負担増は、12兆1千億円を超過する。既に予算化されている補助金の削減も提示され、府下の多くの市町村が反対を表明している。協会は、格差の是正、所得再分配機能をもつ社会保障制度を拡充することを政治の基本に据えることを決めた。